

堺市の生物多様性にふれる冊子

# 堺いさものの通信



ユリカモメ

2024 冬 号



アオジ

ウスイロシマゲンゴロウ



ナンテン



ニコアイサ



# 堺にすむ

# いきものたち

十二月から二月に堺市内で見られる

ここでご紹介する写真はすべて堺市内で撮影された写真です。WEBサイト「堺いきもの情報館」に、市民の方などからご投稿いただきました。個性豊かな生き物たちや彼らのすみかを見て・知って、生物多様性を感じてみてください。

人カル



ニホンミツバチ



ムラサキツバタ

## 生物多様性

すべての生物の間に違いがあること

たくさんの個性豊かな生き物たちがつながりをもって生きています



ツバキ



ヤマガラ



エナガ

コゲラ



クロチク



ミズスズメ

# いきものたちのすみか

## いきものたちはどこにすんでいるのか？

写真には生き物の姿だけでなく、様々な自然環境が写りこんでおり、彼らのすみかが多様であることがわかります。堺市内には公園、ため池、河川、古墳や南部丘陵などが存在し、みなさんの身近な場所にも色々な生き物のすみかがあるはずです。このように多様なすみかがあることを生物多様性の一つである「生態系の多様性」といいます。

**生物多様性とは身近なものなんですよ！**



アカバナマンサク

もっと **いき** もの知りになれる！

# 生物多様性のおはなし

## － 気候変動と生物多様性 －

今回は気候変動と生物多様性の深いつながりについて、みなさんに知っていただきたいと思います。ここでいう気候変動問題とは、人間活動に起因する長期的な大気や降水量などの変化のことをいいます。

ご存じの方も多いと思いますが、気候変動は生物多様性の損失の主要な要因のひとつです。生物分布の変化や、海面上昇による生息域の喪失など、気候変動が生物多様性の損失につながることは想像しやすいと思います。反対に生物多様性の保全が与える気候変動問題への影響について「緩和」と「適応」という2つの側面から考えてみましょう。

「緩和」とは、温室効果ガスの排出削減や吸収を増加させることです。二酸化炭素の重要な吸収源として、森林に加え藻場、干潟などが挙げられます。つまり、豊かな生物多様性（特に生態系）の保全が気候変動の「緩和」に非常に重要です。

次に「適応」を端的に説明すると、気候変動の影響を軽減するということです。カーボンニュートラル（排出した二酸化炭素を吸収して、差し引きゼロにする）が実現できたとしても、これまで人間が過剰に排出した累積の温室効果ガスの影響により、気候変動を完全に阻止することはできません。そのため「適応」も同様に重要なのです。先ほど例に挙げた森林や干潟はそれぞれ、気候変動により生じる土砂災害や洪水のリスク軽減に寄与することが知られています。つまり、豊かな生物多様性を保全することは、優れた「適応」策でもあるのです。

気候変動と生物多様性が深い関係にあることがわかっていただけたかと思います。両問題を切り分けず、同時解決に向けた取組が模索されています。

堺市の生物多様性を考えるWEBサイト



＜編集・発行＞

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL：072-228-7440 / FAX：072-228-7317

E-mail：kankyo@city.sakai.lg.jp

ユーザーネーム

＼ sakai\_ikimono ／



WEBサイト  
トップページ



Instagram  
アカウント